

## 授業作り・授業見学の観点

(1) 教科指導に関する観点（黒色のペンでメモ）

- ① 活動は知的で楽しさがあるか
- ② 発問・指示が効果的であるか
- ③ 教材や教具は児童生徒を惹きつけているか
- ④ 教材や教具を適切に使用していたか
- ⑤ 教師は児童・生徒が分かっていないところやできていないところを見つけ出しているか
- ⑥ 児童生徒が分かるようになるため、できるようになるための的確なアドバイスや支援を教師がしているか
- ⑦ 時間配分は適切か
- ⑧ 説明は効果的か
- ⑨ 板書は効果的か

<板書の目的>

- (ア) 教師が重要だと思う情報を伝達する（プリントで済ますことができるし、写させたものをあとで使わないと意味がない）
- (イ) 解答・解法を共有する（プリントで済ますことができるが、答えにたどり着くステップを1つずつ視覚的に確認する価値はある）
- (ウ) 児童・生徒の意見を整理し、次の発想を促す（プリントでは済ませられない）

- ⑩ 教師の知識・技能にミスはないか
- ⑪ 授業の結果、児童生徒の技能や学力の向上が見られたか

(2) 全教科に共通する指導技術（青色のペンでメモ）

⑫ 指名に意図が感じられるか

⑬ 全体発表は本当に必要か

<全体発表の目的>

(ア) 解答・解法を共有する（聞き手が「なるほど、そうやるのか」とか「あった！」と思う）

(イ) 異なる意見を鑑賞する（聞き手が「確かにそれも正解だ！」と思う）

(ウ) 児童生徒が元の活動に戻りたくなる（聞き手が、「そうやればいいのか。先生、もう1問出してください」とか、発表を聞いていて「あ、もう言わないで、先生、続きやっていますか」と言って活動に戻ろうとする）

⑭ 個々の児童・生徒の活動の時間が確保されているか

⑮ 学習様式の見直しは正しかったか

⑯ 教え合い、学び合いのための仕掛けがあったか

⑰ 上位層が満たされていたか

⑱ 上位層が説明を補足したか

⑲ 教師が我慢しているか

⑳ 児童生徒の間を回るとき、意図を持って回っているか

21 学校でしかできないこと、チームティーチングでしかできないことをしているか

22 教師が児童生徒から学ぼうとしていたか

(3) 生徒指導に関する観点（赤色のペンでメモ）

23 児童生徒一人ひとりをしっかり観察しているか

- 24 児童生徒の互助システムは作られているか
- 25 しつけるべきことを妥協していないか
- 26 児童生徒のつぶやき、発言、行動に気づき、的確に対応しているか
- 27 児童生徒が全員見られるように視野を広くして観察しているか
- 28 児童生徒は教師を受け入れ、授業に期待し、教師を支えようとしているか

## 1 学力向上のためのポイント

学力向上のためには、「教師の指導技術が高い」ということと「教師の人間的魅力」という 2 つのポイントが必要です。指導技術を高める努力をすると同時に、人間性も磨きましょう。児童生徒は先生が大好きだと学習意欲が高まりますし、先生のためにも頑張ろうとします。以下の項目を心がけ、私も頑張ります！

- (1) 教師は、自分の弱点と向き合い、それを克服しようと努力する前向きな人生の先輩か
- (2) 教師は、児童生徒にとって、分からないことを聞いて確かめたいと思う存在か
- (3) 教師は、児童生徒にとって、一緒にいるだけで安心できる存在か
- (4) 教師は、児童生徒にとって、自分(たち)を応援してくれる人か
- (5) 教師は、児童生徒が話しかけたい、話を聞いてもらいたい、相談に乗ってほしいと思う存在か